



# 「金屋石」の歴史を今に

全国商工会青年部連合会

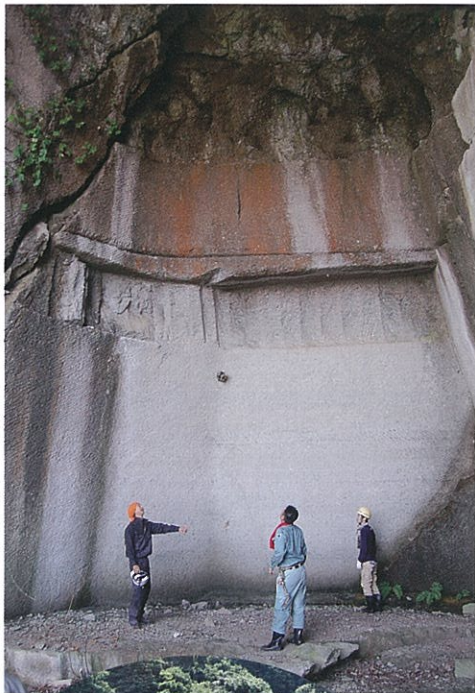
会長 宮窪 大作

6

庄川地域で生まれ育ち、商人として仕事をできるのも、先人の歩みがあったからこそ。庄川町と言えば、「ゆず」や「ねぎ」など、気候に恵まれて育つ農作物、流木や挽物木地、ダム建設など、一級河川庄川の恩恵で栄えた歴史は、今日にいたっても変わらず伝えられ愛されてきました。

「金屋石」はどうでしょう？

庄川地域で生まれ育ち、商人として仕事をできるのも、先人の歩みがあったからこそ。庄川町と言えば、「ゆず」や「ねぎ」など、気候に恵まれて育つ農作物、流木や挽物木地、ダム建設など、一級河川庄川の恩恵で栄えた歴史は、今日にいたっても変わらず伝えられ愛されてきました。



石切り場



対岸へ移動  
舟

庄川町史や兼六園全集などの文献を通して、前田利常や銭屋五兵衛、椎名道三や石黒信由などの人物と「金

大きく見えていたはずの石切り場の穴が見当たらず、岩肌すら生い茂った木々や草で覆われ、分からない状態でした。この時に感じたことが、当時、多くの石職人で栄えた歴史が、時代の進化と共に、大量に切り出せる大谷石の進出や、科学の進歩で発明されたコンクリートなどの進出により閉口された石切り場。しかし、その時代があったからこそ、私達が今生活していることを忘れていました。

当時、石切り場に通つておられた、石澤様や扇割様の話を聞きました。エンジン付きの船や石を切断する機械も無い時代、朝早くから炬に火を入れ、石切り用のノミ先を打ち、雨の日も風の日も木船で対岸に渡り、崖に登り手作業で石を切り出していたこと。



仲間たち

後日計画を立て、仲間たちと共に対岸に渡り、石切り場を探し出し、四十五年の長きに渡り生い茂った木々を伐採し、石切り場の穴を対岸から見えるように作業してきました。

あらためて対岸から見る石切り場の穴は、幼少期の記憶よりも大きく誇らしく感じました。今後も「金屋石」だけでなく、様々な地域の宝に光を当てていく活動をしていくことが、今の世代にあたえられた使命と思い活動していきます。

## 麻雀大会

冬の恒例行事として、楽しみにしておられる方も多い麻雀大会が二月二日、庄川生涯学習センターで行われました。結果は次のとおりです。

- 【個人】 一位 白山 久一
- 二位 伏木 順一
- 三位 雨池 善正
- 【団体】 一位 清水
- 二位 西野々
- 三位 原出



団体1位・清水チーム

## 編集後記

今年も、当初暖冬の長期予報がはずれ厳寒の日本列島です。山中教授が、iPS細胞の発見でノーベル賞を受賞し、難病や再生医療に新たな可能性が開かれました。

また、東京スカイツリーの開業やロンドン五輪での最多のメダル獲得等の明るいニュースがあります。

反面、中央高速・笹子トンネルでの崩落事故など高齢化したインフラの事故など高度成長期のひずみが出始めた年でもあります。

師走の衆院選では、自民党が政権を奪還しました。一昨年の「東北大地震」から、はや2年弱が経過しましたが、震災瓦礫の始末さえ思うように進んでいません。スピード感ある政策で明るい将来を期待しつつ次年度に引き継ぎます。